

平成24年9月

松本浩実 学位論文審査要旨

主 査 豊 島 良 太
副主査 深 田 美 香
同 萩 野 浩

主論文

Fall incidence and risk factors in patients after total knee arthroplasty

(人工膝関節全置換術後患者における転倒頻度と危険因子について)

(著者：松本浩実、奥野誠、中村達彦、山本吉藏、萩野浩)

平成24年 Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery 132巻 555頁～563頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、人工膝関節全置換術後の高齢者における転倒発生率を前向きに調査し、転倒と身体・運動機能との関連性を検討したものである。その結果、人工膝関節全置換術後患者の転倒頻度は32.9%と一般高齢者の転倒頻度の報告と比べ高い値であること、転倒の危険因子は術後の膝関節屈曲可動域低下と足関節底屈可動域低下であることを明らかにした。本論文の内容は、リハビリテーション分野で、人工膝関節全置換術後患者に対する転倒・骨折予防介入の必要性を示すものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。